

タイミング行動のベイズ推定における複数の事前分布の獲得：  
内言の効果の検討（研究の進捗発表（シニア（大学4年生以上）, 概要講演あり, 既発表））

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2021-08-17<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 夏目, 柊, 山田, 千晴, 松村, 圭貴, 佐藤, 良, 宮崎, 真<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/10297/00028317">http://hdl.handle.net/10297/00028317</a>   |

## タイミング行動のベイズ推定における複数の事前分布の獲得：内言の効果の検討

夏目柊（静岡大学情報学部情報科学科）、  
山田千晴（早稲田大学文学学術院）、  
松村圭貴（静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学専攻）、  
佐藤良（静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学専攻）、  
宮崎真（静岡大学学術院情報学領域）

我々が、安定した知覚-運動行為を行うためには、変動を含む情報から外界を推定しなければならない。理論上、中枢神経系が課題標的の分布を事前情報として獲得し、感覚情報と統合することにより変動の影響を最小化することが出来る（ベイズ推定）。先行研究により、タイミング行動でベイズ推定が行われていることが示されている（e.g., Miyazaki et al. 2005, Roach et al. 2017）。多様な事物に満ちた実環境で、ベイズ推定が機能するには、複数の事前分布を獲得する必要がある。本研究は、事前分布に応じて異なる内言を割り当てて課題を行うことにより、複数の事前分布を速やかに獲得できるとする仮説を立て、タイミング一致課題を用いた心理物理学実験を行っている。現在までの進捗として、短時/長時2種類の事前分布に異なる内言（“A”, ”B”）を割り当てることにより、それら二つの事前分布を学び分けることが出来ることを示唆する結果が得られている。

### <既発表情報>

夏目柊, 山田千晴, 松村圭貴, 佐藤良, 宮崎真, “タイミング行動における事前分布の学習：内言による複数の事前分布の学び分けの検討”, 情報学ワークショップ2020, ショートプレゼン, S-4B-9, 2020年11月28日.